レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外 Paget 病	
	タイプ	文献レビュー	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Extramammary Paget's disease.	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	PagetCQ1-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (I)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	BJOG	
	雑誌 ID		
	巻	112	
	号		
	ページ	273-9	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2005	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Shepherd V	Department of Dermatology, Clatterbridge Center for Oncology
	その他著者 1	Davidson EJ	Department of Obsterics and Gynaecology, Countess of Chester Hospital NHS Trust
	その他著者 2	Davies-Humphreys J	同上
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

レビュー研究の 6 項目	目的	乳房外 Paget 病の文献的レビュー
	データソース	Medline
	研究の選択	特定なし
	データ抽出	不明
	主な結果	乳房外 Paget 病は外陰部癌の 3~5%で、稀な疾患。診断には生検が重要。20~30%に内臓悪性腫瘍の合併があり、詳細な全身検索が必要。手術が治療の第 1 選択であるが、再発率は 40%と高く、術後も長期に亘る経過観察が必要であった。手術のほかには、放射線治療、外用または全身的化学療法、レーザー治療、光力学的治療、Mohs micrographic surgery などが試行されている。
	結論	乳房外パジェット病では、詳細な全身検索が必要で、胸部 XP・骨盤超音波・IVP・マンモグラフィーのみならず、膀胱鏡・子宮鏡・腹腔鏡・大腸内視鏡検査を施行すべきである。各種治療法の有用性を検証するためには、多施設共同の前向き無作為振り分け試験が必要である。
備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	清原隆宏
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (I) ごく最近までの文献を網羅した乳房外 Paget 病に関する最も優れた総説。しかし、参照された個々の文献はいずれも少数例の症例解析であり、各項目におけるエビデンスレベルはいずれも低い。症例数と報告数がそれ程多くない疾患での貴重な論文である。厳密にはシステマティック・レビューではないが、現時点ではそれに準ずるものと評価した。